

東区まちあるき レポート

東区E産探求プロジェクト事業

学生記者として 山の下・通船川まちあるき を終えて / 犬塚暁都

私は9月28日に新潟市東区の「山の下・通船川まちあるき」のイベントに参加しました。この日は天候に恵まれ、雲は見られましたが絶好のまちあるき日和でした。

まず、私たちは東区役所からバスで山の下神明宮へ向かいました。山の下神明宮は丘の上にある小さな神社で、地元では夏の終わりに開かれる「山の下祭り」が有名です。神明宮の麓には、神明宮へ続く道路に大きな石の鳥居があり、とても印象的でした。



社は高台に位置しており、階段を数段上がって社に向かいます。山の下神明宮では、穀物の豊作や学問成就を願う神様である「豊受姫命（トヨウケヒメノミコト）」を祀っています。その起源は古く、1633年に創設されましたが、元は石川県加賀地方の大聖寺にあるとされています。入植のために村民が石川県大聖寺から移り住んだことが始まりとなり、ここに山の下神明宮が建てられました。

その後、私たちは山道から続く山の下市場通りへと向かいました。山の下市場通りは昔ながらの商店街で、シャッターが閉まっている店舗も見られましたが、レトロな雰囲気やローカルなお店、露店などが見られ、地元の雰囲気や、人と人の距離が近い暖かい空間であると感じました。また、私たちが訪れた1週間後には市場通りでフリーマーケットが開催される掲示があり、今でも街のシンボリックな立ち位置として商店街が続いていることが分かりました。



次に、私たちは大山台公園へ向かいました。大山台公園は、太平洋戦争末期に新潟港に爆弾を投下する米軍の爆撃機を撃墜するために高射砲の陣地を築いたところから始まっています。今では、戦争の凄惨さを感じさせないほど美しい公園となっており、展望台から見える景色は東区の工場地帯や、その反対側に広がる海を一望できる絶景スポットとなっています。広々とした街並みを望み、この地域が発展した背景を考えることができました。



最後に、私たちは山の下閘門排水機場に向かいました。この排水機場は、東区を水害から守る重要な施設であり、人工的に河川水位を低くするポンプ装置が設置されています。

例年は殆ど使用しないとされていますが、今年は豪雨が多かったため、使用される機会が増えたそうです。私たちは普段の生活では水害の危機を感じることは少ないですが、実際にはこのような排水機場が裏で重要な役割を果たしていることが分かりました。



職員の方のご説明の後、私たちは実際に排水ポンプを見学しました。排水ポンプは山の下の排水機場に3台あり、降水などで水位が上昇する場合には必要に応じて運転を行っているとのことでした。これらのポンプは全て稼働すると、25メートルのプールを8秒ほどで空にできるほどの力を持っており、災害に備えて24時間体制で監視や運転操作が行われています。

その後、私たちは東区役所に戻り、参加者の皆さんとお弁当をいただきました。この街歩きでは、神明宮、街並み、そして排水機場と東区の街について広く触れることができました。普段街を歩いていて目に留められない場所や入ることのできない施設でも、それぞれに歴史や大切な役割があり、過去から現在まで人々が紡ぎ続けていることを身体で感じることができました。



一緒に行動した参加者の方々も、3キロという長い道のりでしたが、元気に歩いて楽しく見学をしており、東区についてだけではなく、ご趣味の話や地元のことなど、いろいろお話をさせてもらい、とても楽しく過ごすことができました。

今回はこのような貴重な経験をありがとうございました。